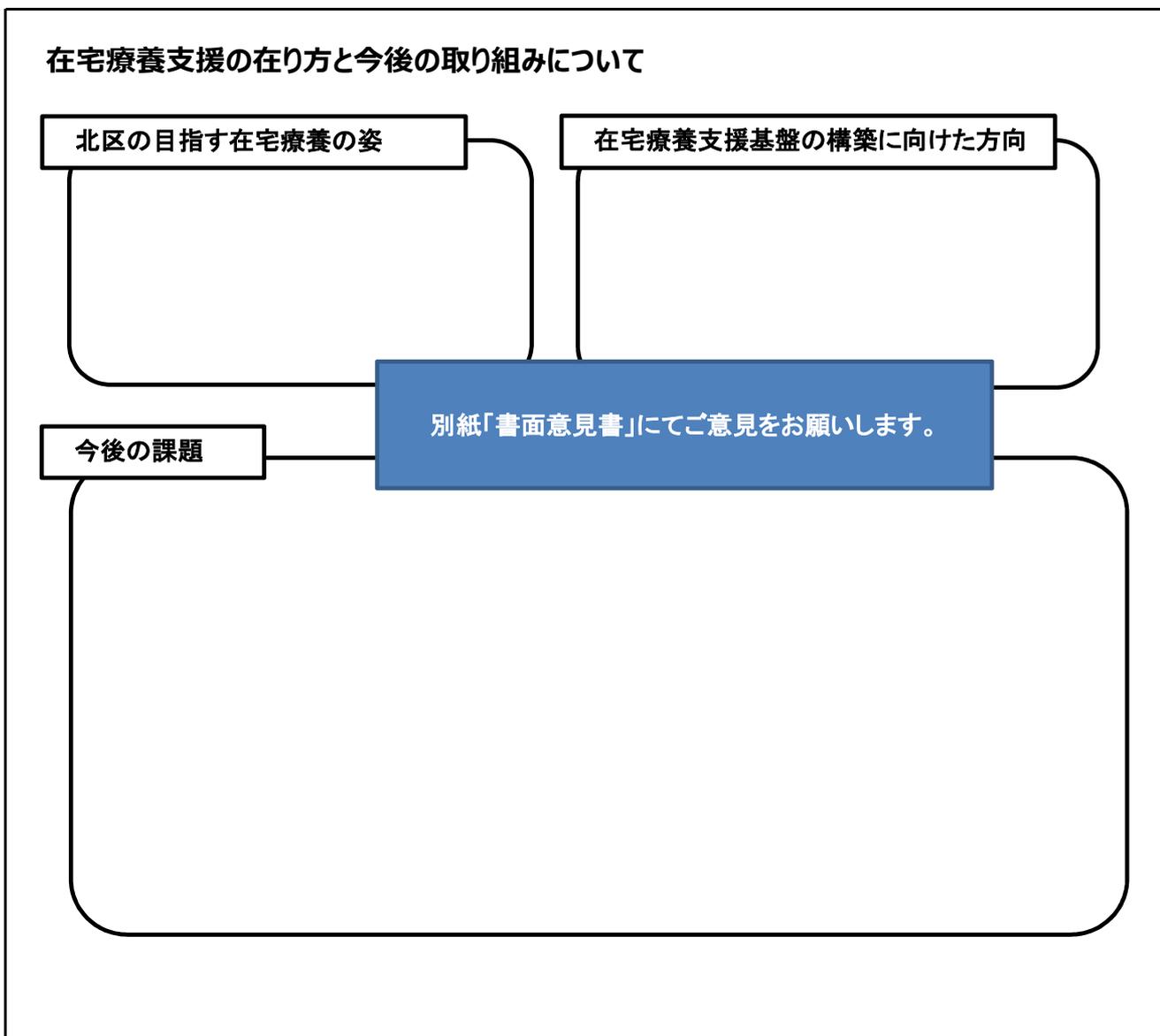


今後の在宅療養支援の在り方と取り組みについて

「北区の目指す在宅療養の姿」
「在宅療養支援基盤の構築に向けた方向性」
「今後の課題」
の3点について、別紙「書面意見書」にてご意見をお願いします。



Ⅲ 在宅療養支援の在り方と今後の取り組みについて

北区の目指す在宅療養の姿

高齢になっても、安心・安全に住み慣れたまちで、その人らしく充実して暮らしていける在宅療養生活

在宅療養支援基盤の構築に向けた方向

- ① 他職種との顔の見える連携づくり
- ② 在宅療養を進める人材育成
- ③ 多職種との情報共有のしくみづくり
- ④ 区民への啓発活動

今後の課題

- ① 在宅療養の環境整備は進んできたが、今後は区全体での介護医療関係者に理解を深めていただく機会を持ち、区全体での多職種連携づくりを進めていく必要がある。
- ② 入退院時における多職種の連携が円滑に進むよう、情報を共有するための様々なツールを効果的に活用する仕組みが必要である。
- ③ 在宅療養や看取りに関して、区民への普及啓発活動を進めて、地域の関心ごととしての機運を高めていく必要がある。
- ④ 施設や病院、在宅など、本人が望んでいる場所で人生の最期を迎えることができるよう、在宅療養を支える医療・介護関係者へのACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及が求められている。
- ⑤ 団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）に向けて地域包括ケアシステムの構築を実現できるように、在宅医療を普及し受け皿を確保していく必要がある。

令和元年度の取り組み

- ① **在宅療養支援の環境整備の充実**
 - ・事業等の評価についての検討
 - ・入退院時における効果的な連携方法の検討、ICTの活用支援（医師会への補助※2年目）
 - ・医療社会資源調査の実施、調査項目の検討
 - ・区西北部医療圏における関係区との連携の充実（東京都在宅療養ワーキングへの参加など）
 - ・在宅療養支援相談窓口事業、協力支援病床確保事業等の継続実施
 - ・病院救急車を活用した在宅療養患者搬送事業（医師会事業）への補助【新規】
- ② **多職種連携のしくみづくり**
 - ・多職種連携研修会・顔の見える連携会議の継続実施
 - ・摂食えん下機能支援の研修の継続実施
- ③ **区民への啓発活動**
 - ・区民啓発講演会の実施
 - ・出張出前講座のモデル実施、検証（2年目）